

# 平成23年度三番瀬再生実現化試験事業（干潟的環境形成試験）の実施状況について

## 目次

1. 平成23年度調査内容 .....	1
2. 第1回目調査の結果概要 .....	1
(1) 調査時の気象・海象 .....	1
(2) 地盤高 .....	1
(3) 底質 .....	2
(4) 生物調査1（目視観察） .....	2
(5) 生物調査2（採泥調査） .....	2

平成23年度調査内容および第1回目調査の概要

1. 平成23年度調査内容

平成23年7月から平成24年3月にかけて4回の調査を予定しており、調査内容は表1のとおりである。

調査方法は、昨年度と同一であるが、底質の採取については、透明の亚克力管による柱状採泥とし、外観を観察するとともに、表面から10cmの試料について粒度分析を行った。また、採泥調査については25cm四方のコドラートを用い、深さ10cmまで採取を行った。

表1 平成23年度調査計画

調査項目	調査地点数	調査回数	調査頻度				備考	
			7月	9月	12月	3月		
試験区	物理的地盤高	217地点	4回	○	○	○	○	20m×20m:2mメッシュ 内10m×10m:1mメッシュ
	底質	4地点	4回	○	○	○	○	採泥は底生生物調査にも利用
	目視調査	1地点	4回	○	○	○	○	コードラート (1m×1m)
	採泥調査	3地点 (1検体)	4回	○	○	○	○	アサリ、ハマガイ、ホンビノス、ゴカイ類
対照区	物理的地盤高	121地点	4回	○	○	○	○	10m×10m (1mメッシュ)
	底質	3地点	4回	○	○	○	○	採泥は底生生物調査にも利用
	目視調査	1地点	4回	○	○	○	○	コードラート (1m×1m)
	採泥調査	3地点 (1検体)	4回	○	○	○	○	アサリ、ハマガイ、ホンビノス、ゴカイ類
調査条件の記録				○	○	○	○	現地調査時に気象・海象等の記録を行う

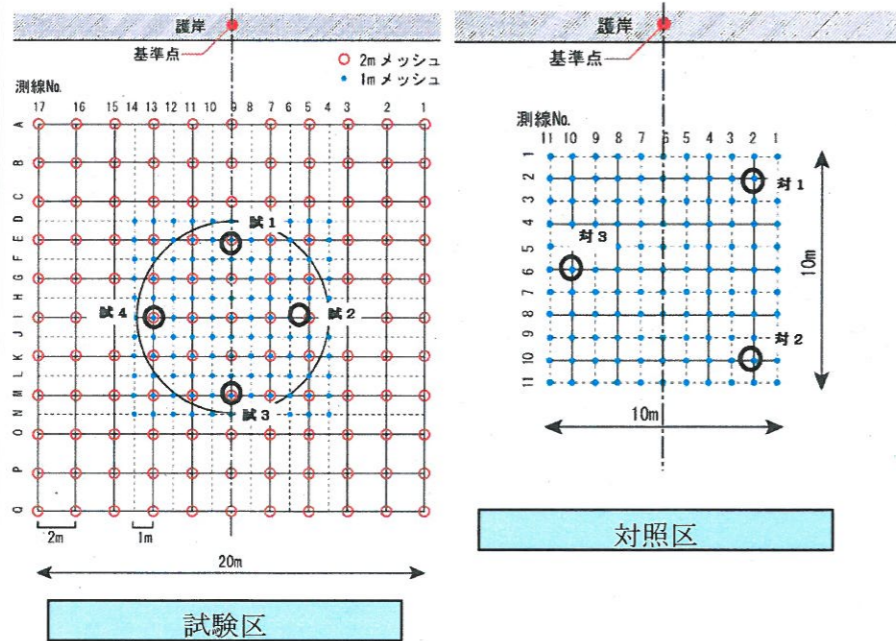


図1 調査地点

2. 第1回目調査の結果概要

第1回目調査は、平成23年7月5日に実施した。

(1) 調査時の気象・海象

調査の前日から南寄りの風が強く、溶存酸素は上昇傾向を示していた(図2)。調査当日に現地測定した水質は表2のとおりであった。

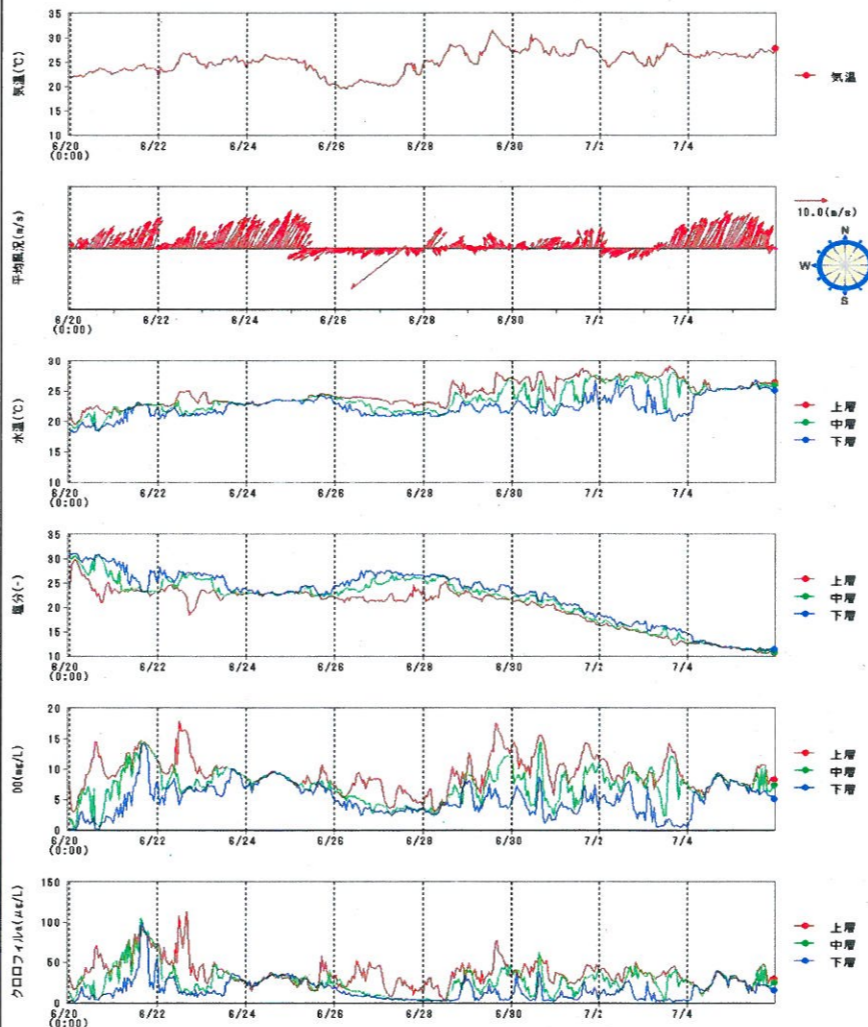


図2 浦安沖における気象・水質観測結果

国土交通省関東地方整備局港湾空港部 東京湾環境情報センター（浦安沖）

<http://www.tbeic.go.jp/MonitoringPost/viewGraph.asp?buoyId=03>

表2 調査日の水質(9:45)

表層	水温(°C)	26.4
	塩分(PSU)	26.1
	DO(mg/L)	6.9(飽和度89.6%)
	pH	8.12
底層	水温(°C)	26.1
	塩分(PSU)	26.0
	DO(mg/L)	6.2(飽和度79.9%)
	pH	8.12

(2) 地盤高

護岸天端に設置されていた目印の高さを基準として地盤高の測定を行った。試験区のマウンド中心では2月に比べて約30cm低下していた(図4)。対照区では大きな変化がなかった(図5)。

地震の影響による基準点の高さの変化については、今後検討予定



図3 干潮時における試験区の様子(干出はなかった)

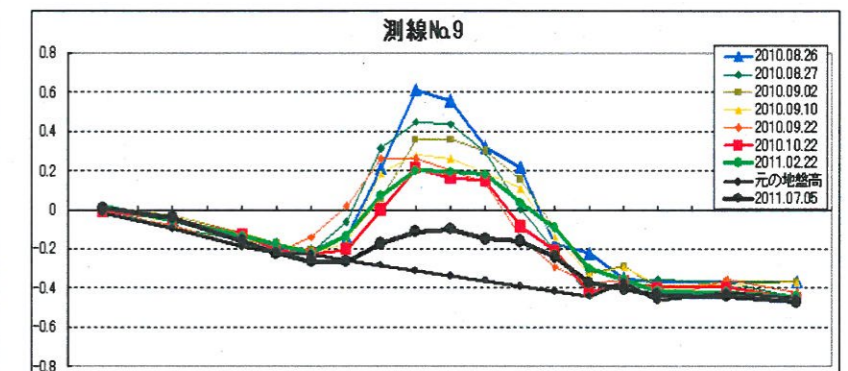


図4 試験区中心線の地盤高

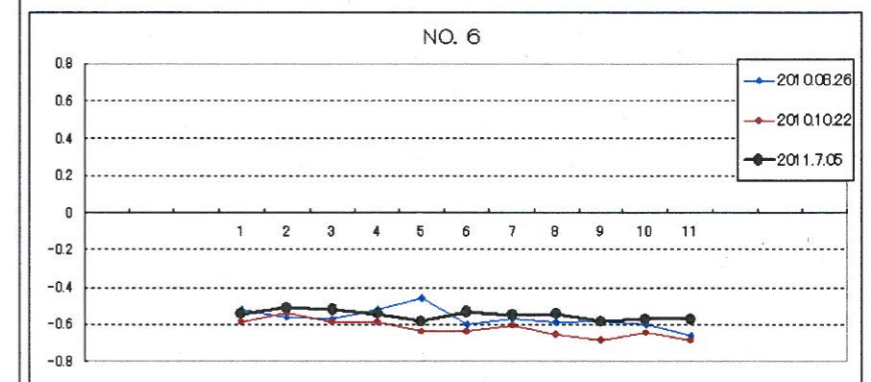


図5 対照区中心線の地盤高

平成23年度調査内容および第1回目調査の概要

業務概要

（3）底質

アクリル管により柱状に採取し粒度分析（篩分け試験）を実施した。粒度組成は分析中。  
試験区の表面の底土は、やや黒みを帯びており、周辺の砂泥と混合したような状態。その下は客土した状態のままであった（図6）。

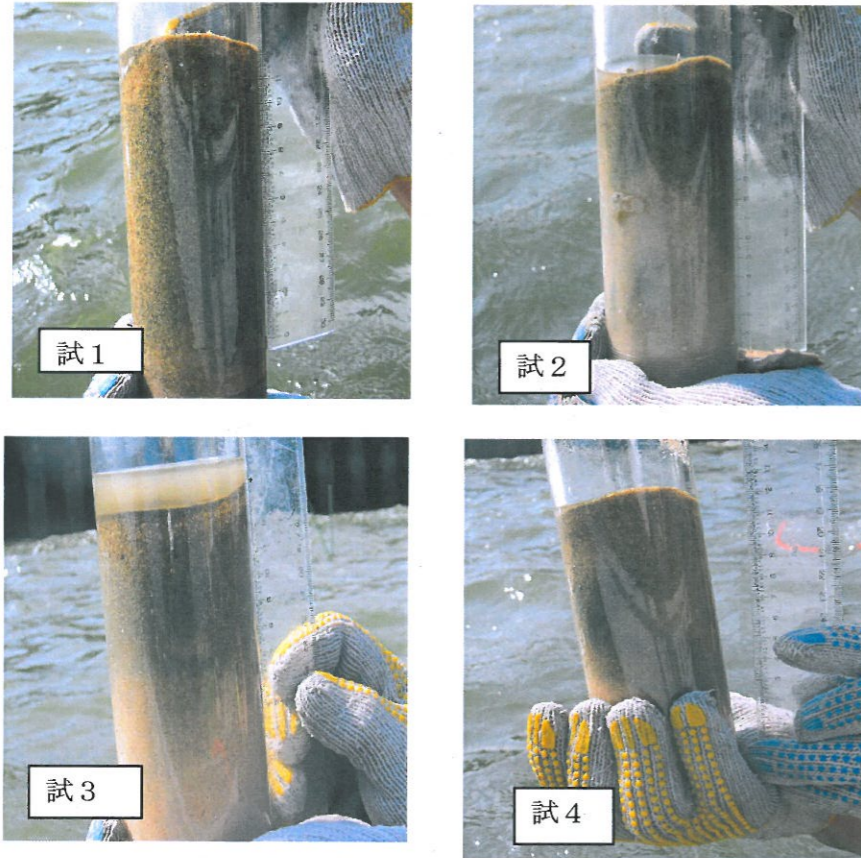


図6 試験区の底土

対照区の底土は黒みを帯び、弱い硫化水素臭があった（図7）。



図7 対照区の底土

（4）生物調査1（目視観察）

1m×1mの方形枠を設置し目視観察を行った。調査当日は赤潮及び底土の巻き上げがあり視界が悪かった。観察結果は表3のとおりであった。

表3 目視観察の結果

試験区	砂表面に生物巣穴多数 ハゼ類6個体(重複カウントの可能性あり)
対照区	タイヤ、土嚢袋のようなゴミが散在 生物の巣穴的なものは確認できなかった ハゼ類2個体 散在するゴミ上にホヤ類25個体 イシガニ1個体 管棲ゴカイ3個体

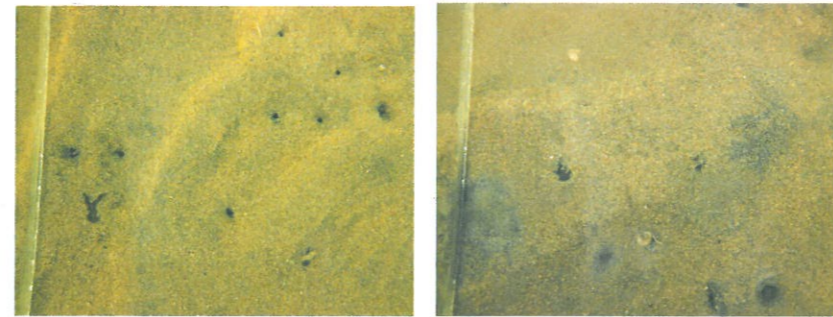


図8 試験区でみられた生物の巣穴

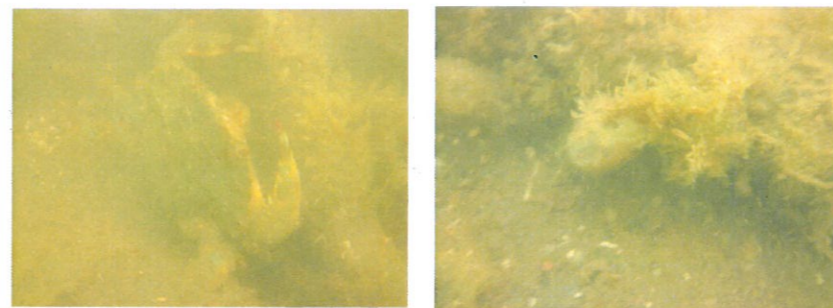


図9 対照区（左：イシガニ、右：ホヤ類）

（5）生物調査2（採泥調査）

試験区、対照区とも3カ所で採集を行った（採集面積：0.19㎡）  
採取した試料については、現在同定作業中。  
試験区では殻長3mm程度のアサリ稚貝、殻長10mm程度の杢比ノガイ等が採取された（図10）。  
また、対象区では貝殻等の夾雑物が多く、分析中であるが、現地で生息が確認できたのは多毛類のみであった（図11）。



図10 試験区の生物（アサリ、ピノスガイ、ゴカイ類）



図11 対照区の採集物